

第20回関東女子実業団剣道大会 セントラル警備保障に ビッグタイトル

平成22年10月17日(日) 千代田区スポーツセンター
主催◆関東女子実業団剣道連盟
撮影◆窪田正仁



決勝

【大将】伊賀(セントラルA) メメー④ 山口(第一生命)

▲鮮やかな出ばなメンで先制したのは山口だった。が、伊賀は懸命の攻めを見せてかつぎ気味の攻めからメンを決めて同点に追いつくと、再開直後にも同じような攻めからメンへ。これもみごとに決まった(写真)

◆成年女子決勝

チーム	順	先	中	大	得点
セントラル 警備保障A		中 嶋	加 藤	伊 賀	1
		×	×	メ メ ④	2
第一生命		伊 賀	中 嶋	加 藤	1
		山 口	下 坂	山 口	0

関東女子実業団剣道大



優勝◆セントラル警備保障A

中嶋優希、加藤広美、伊賀妃都美、高橋ちえみ。監督=佐藤勝彦

これまでと会場を替えて開催され、45チームが出場した。3〜4チームによるリーグ戦を行ない、各リーグの上位2チームが決勝トーナメントに進出する。ここ数年女子実業団剣道界の上位に君臨している富士ゼロックス東京は、最多の5チームをエントリーし、4チームが予選リーグを突破したが、4チームすべてが意外なことに緒戦で敗退するという波乱。本社チームは昨年の決勝戦で戦った総合警備Aと対戦。先鋒戦で総合

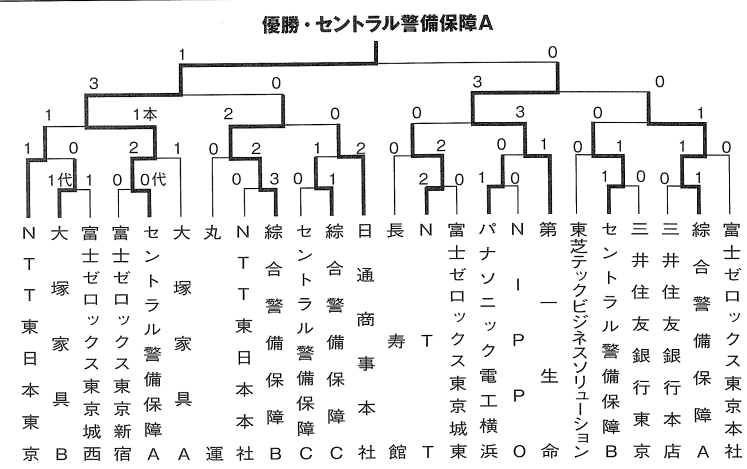


2位◆第一生命
 杉込麻衣子、下坂桃子、山口明子。監督Ⅱ柏清貴



3位◆総合警備保障A、総合警備保障B

【Aチーム】平山絵里、海保喜美、篠原佐智代。監督＝木村孝
【Bチーム】角田有佳利、内海美咲、市村朱。監督＝武田智成



参加会社(順不同)

総合警備	丸運
NTT東日本	キャンノン
三井住友海上	三千和商工
日本通運	望星サイエンス
JR東日本リテールネット	日通商事
富士ゼロックス東京	長寿館
三井住友銀行	日本電気
ニチベイ	第一生命
セントラル警備保障	東京システム運輸
大塚家具	東芝テックビジネスソリューション
パナソニック電工	東洋水産
NIPPO	日本アイ・ピー・エム



本大会の試合写真の一部は「剣道ナビ」上で「スライドショー」として見ることができます(剣道ナビについては57ページをご覧ください)



準々決勝

【先鋒】角田（総合警備B）⊗×ード
土井（日通商事本社）

▲打ち合いのなかからメンを先制した角田に対し、防戦を強いられていた土井は抜きドウを奪い返し、さらに旗が一本上がる出ゴテも放つ。が、その直後に角田がメンを奪い、勝利を収めた（写真）



準決勝

【先鋒】 栢込 (第一生命) ⊗ — 平山 (綜合警備A)

▲栞込が中心を攻めると、平山の左手が大きく上がる。その形から平山がメンに出たが、栞込はそのはなにみごとなメンを決めた（写真）



準決勝

【中堅】加藤（セントラルA）⊗メーコ 内海（総合警備B）

▲加藤が、序盤に相手のコテを打ち落とし気味に応じてからのメンを決める(写真)。内海は跳び込みゴテでいったん追いついたものの、加藤はすぐさま相メンを制し、ここでセントラル警備の勝利が決まった



準々決勝

【中堅】加藤(セントラル警備A)⊗メー 若度(NTT東日本東京)

▲リードを奪われたセントラル警備だったが、加藤が果敢に攻め立て、ひいた相手を追い込み、メンへ。若度もメンを合わせたが、2-1で加藤に軍配（写真、右が加藤）。その後加藤はひきメンを追加した



準々決勝

【中堅】下坂(第一生命)ⓧ— 桑原(NTT)

▲序盤に下坂が出ゴテを決める（写真）。起こりの「お」をとらえたような一打だった。その後も下坂は、惜しい出ゴテを何回か放ち、桑原に充分な打突をさせなかった

ともに初優勝がかかった決勝戦。今年の全日本女子選手権にも出場した柊込（第一生命）は、この舞台では頭一つ抜けた強さを見せていたが、決勝戦では有効打を奪えずに終わる。中堅戦でも有効打が生まれず、勝負は大将戦に持ち込まれる。ここでチームを支えてきたセントラル警備の伊賀が奮起。先制されながらも会心のメンを連取した。これまで全日本女子実業団大会では3位入賞があったセントラル警備だったが、優勝は全日本・関東を通じて初めてである。

「チームワークをうるさく言って来まし

た。いつか勝てるとは思っていました。が、実感がありません」

と佐藤勝彦監督が語れば、伊賀は、「一本を取られてふつきました。無我夢中で打ちました。家族のおかげです」と喜びを語った。

伊賀は5歳の女の子と1歳の男の子の母親である。対する山口も、3人の子供全員が剣道愛好家だ。山口は、会社の稽古以外にも神奈川県立武道館等での稽古に出向いており、この年代の女性にとつては目標とされる存在。そんな稽古量が物語るようなすばらしい剣風であった。

対するブロックから準決勝に上がってきたのは、セントラル警備Aと総合警備B。セントラル警備Aは、トーナメント緒戦で代表戦を迎えたが、大将の伊賀が富士ゼロックス東京の永松からコテを奪い、窮地を脱する。さらに、春先の全日本女子実業団大会で優勝した大塚家具Aに對しては、中嶋と加藤が連勝。NTT東日本(東京)との準々決勝でも有効打突の奪い合いの末に本数差で競り勝った。

接戦を乗り越えるセントラル警備Aに對し、総合警備Bはリーグ3連勝、トーナメントに入ってから快勝が続いていた。しかし、両チームの対戦ではセントラル警備の中嶋が跳び込みメンを連取して総合警備の勢いを止めると、結局3―0で完封勝利を収めた。

警備の平山が跳び込みメンを決めると、残る試合は引き分け、総合警備が競り合いをものにした。

セントラル警備保障Bとの準々決勝でも、大将戦での反則勝ちによる勝利で1－0。連覇まであと2つ、と迫ったが、これを止めたのが第一生命である。昨年、下坂(旧姓・浜田)が、そして今年^{はしなみ}栞込が入社。高校、大学時代に活躍した両選手の加入によって一気にチーム力がアップした第一生命は、パナソニック電工(東京)には栞込のひきドウによって競り勝ち、NNTには3人が一本勝ちを収める。迎えた総合警備Aとの大一番でも第一生命は強く、再び一本勝ちを3つ連ねる。総合警備の連覇はならなかった。